

大分類：103：その他
中分類：204：工夫・新たな取り組み
小分類：業務改善と効率化 374：事務・管理業務

“習慣”からの脱皮

「消耗品払い出し」による職員の意識改革と経費削減

鈴木 絵梨子、佐藤 妃呂美
介護老人保健施設 プライムケア桃花林

コメント：職員の無駄な習慣を見直し、SPD手法を活用した消耗品払い出し方法を取り入れ、また実際にSPDを導入したことにより実現した経費削減効果を報告します。

【はじめに】

当施設は入所者150名、通所リハビリ60名の介護老人保健施設です。

日常使用する消耗品等はかなりの量になり、私は事務の仕事のひとつとして、物品の払い出し業務を行っています。職員がスムーズに仕事に取り掛かかれるように、その裏方として、決められた定数の消耗品を週1回補充しています。以前は、その都度フロアの人が物品倉庫から必要な消耗品を持っていき、事務職員が倉庫の物品をチェックして不足を補充していくという流れでした。

しかし、その従来の方法では、使用頻度の傾向や、制約がない為、使用量が把握できない状態でした。そこで、フロア定数制を定め、決められた日に消耗品を各フロアに補充するシステムを取り入れました。その利点を挙げてみます。

【利点】

- 1 必要定数を定める事によって、業務に携わっている職員が一週間にどれだけの量を必要とするのかが認識できる。
- 2 消耗品を集中管理できる。そのため各フロア必要なものが把握でき、共通意識が持てる。
- 3 払い出し日を決める事で、必然的に不足分の発注数が明確になる。そこで、どのくらいの量の在庫をかかえたらいいかがわかる。
- 4 経費削減へつなげられる。

例えば「2の消耗品を集中管理できる」の具体的施策としては、統一された払い出し用紙を作成し、フロア毎にその用紙に記入された（請求された）値に従い消耗品を台車にセットすることで、数の把握と補充が効率的に行えます。

【取り組みーその1】

物品の必要性・使用方法の見直し

1. 水きりネットの廃止

洗い場で使っていた水切りネットは果たして必要か、代替はできないか、と考えたところ、使い古したストッキングを代替として使用する、または、そもそも使用しない。という案があがり実行してみました。

それまでは、流しでそれぞれ2箇所、かつ1日3回交換していた時もありましたが、今では、水切りネットの請求がなくなり、それまでの、年間25,560円の経費がなくなったのです。排水を綺麗にしようという意識よりも、水切りネット使用の習慣が先にたって、本当に必要性があったのかが見直されたケースでした。

2. トイレの芳香剤の廃止

フロアの各トイレに芳香剤を使用しており、またかなりの発注量でしたが、それを思い切ってなくしてみました。その結果、芳香剤が無くても臭い消しスプレーのみで対応できるということでした。臭いに敏感な職員が芳香剤でなければという思い込みと、習慣があったように思われます。芳香剤を使用していた時は1ヶ月50個使用していた時もあり、年間132,000円の経費がかかっていました。

芳香剤に頼らず臭いの根本的原因から考える事も含め、経費削減につながった例です。

3. ポリ袋のサイズに合わせた使い方

単価の高い70リットルポリ袋だけ使用するのではなく単価の安い45リットルまたは、20リットルポリ袋を多く使用するよう切り替えました。用途・重さ・量に合わせてポリ袋のサイズを考慮して、使い方を検討し経費削減と意識改革に結びつけた例です。

今まで述べたような在庫数、使用数の確実な把握、効率的な払い出し、必要性の見直し等々を行った結果、桃花林版のミニチュアSPDとなりました。

SPDとはサプライ プロセッシング&ディストリビューションの略で、物流管理を一元化し、物品を柔軟かつ円滑に管理する手法で、経費削減の有効な手段のひとつと言われています。

さらに当施設では実際にSPDも導入しています。次にそのSPD導入結果について説明します。

【取り組み—その2】

SPDの導入

SPDとした紙オムツを例にとると、SPD開始以前のH14年から比べると、H15年度は約365,000円の減となり、年間の利用者数はほぼ変わらないので、H16年度はSPD導入前と比べ合わせて約546,000円の削減となっています。介護老人保健施設は、オムツ代・薬代は、施設療養費に含まれているため、これらのコストダウンは、大きな魅力です。

そして、SPDは、在庫をかかえることがない大きな利点と共に、SPD委託業者が直接物を納めてくれるので、施設職員の労働力削減につながります。また、業者の安い商品紹介、使用にあたっての指導などにより経費削減に結びつけることができたと思われまます。

【まとめ】

私のこれからの課題としては、現在倉庫に眠っている消耗品はないか、そして週一回の消耗品補充の際残数が適正かなどをチェックしながら、定数の見直し等のさらなる改善をすすめていきたいと思っています。

現在行っている消耗品払い出し業務が本格的SPDにはいかないまでも、無駄な習慣の見直しなどのチェック機能に役立っている事がわかり、一人ひとりの心がけが経費削減へつながると考えます。